

新編水滸畫傳

六編  
八

~21  
875  
58



門 遠  
號 875  
卷 58

河内

神書佛書醫書國書  
繪本平本新古賣買  
手遊いろく法をい間  
所抄文了れり

依後町三休摺書入  
河内屋孫末衛

新編水滸畫傳卷之五十八

○宋江明糧と棄て壯士と擒

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年  
十一月十日  
東京

梁山泊の陣主呼保義宋江人馬と收め宿屋に廻り、龔旺丁得孫  
ある人の生損と先梁山泊を送り、諸将小對して云々、我聞五  
代の時大梁の王彦章ハ日新と後ざる間に唐の太宗三十一  
人と打し、我諸将彦章が下に立びて之を今日の軍張  
瀧ハ片時の間我大将十人と打らん、是も亦一人の猛将あり。  
法多深是と同く、各黙然として言ひ、宋江を云我熟張清と  
云く、龔旺丁得孫と羽羽矢として勢ひと据ひて、今已に羽羽  
羽矢と活投して、彼が勢必と喜ぶべし、我計あり、法将の如く、

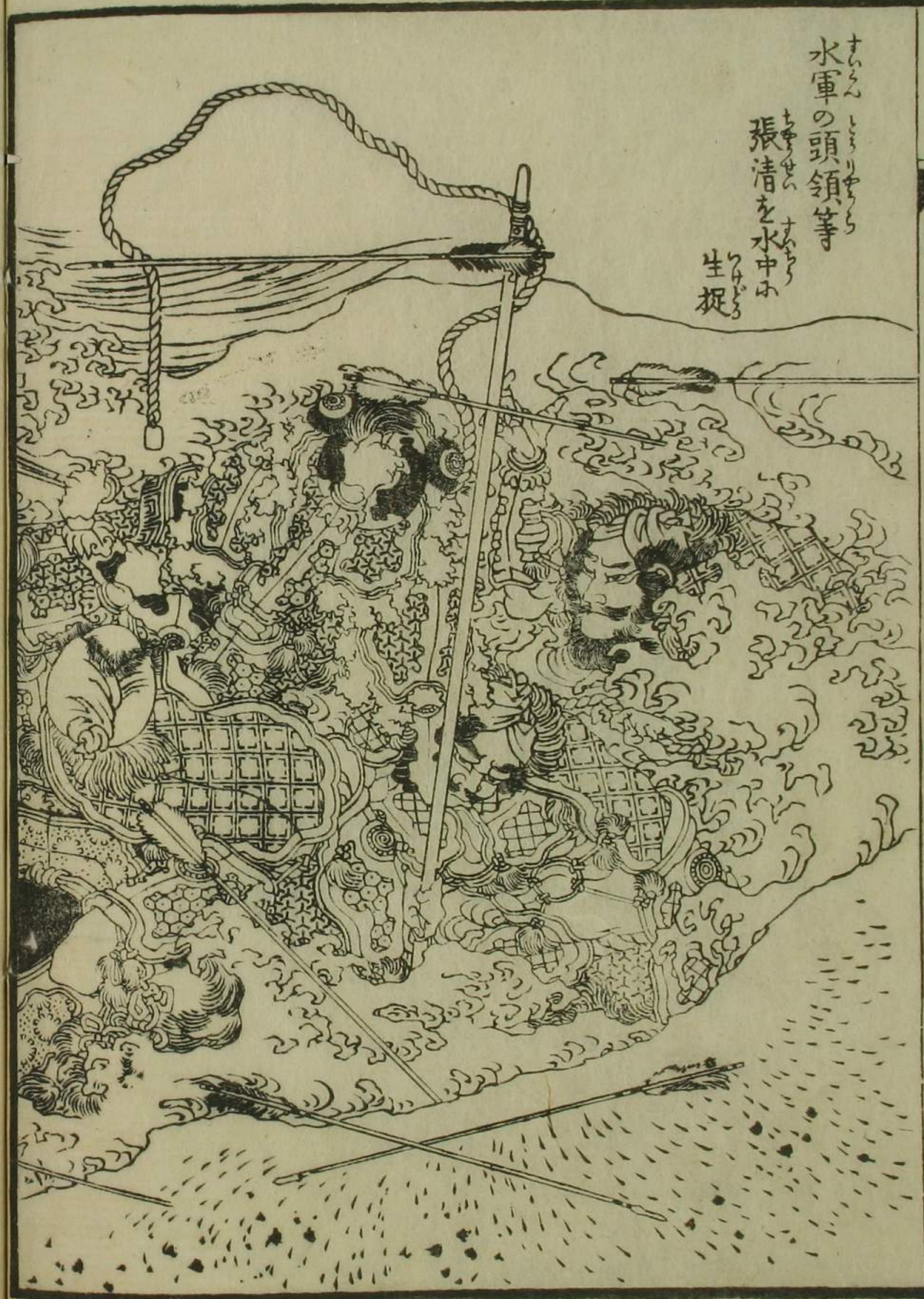
新編水滸畫傳卷之五十八

速ふれされよ。時軍師兵用進みて出て云。宋軍須くんと安んじらん。我今日被が勃勢と委細小竊て計と己小終くぬ。此是其病と云ふ。大將ハ皆山床小回して巻けしあさし。あそ代くして魯智深武行者。孫立。董平。李忠。周通。等小兵と引し。則水傍より並て手合せ殺す。彼張清と孫一。一殺とあさは立取れ。大事成ぬ。一。張清と張人。と。引て女分と定めり。相張清ハ城中に在り。太守と強し。ハ我今我小利と得る。わくど。未だ賊勢の根と除け。暗ふ人と死て。張清が勃勢と得る。わくど。後計と絶す。一人の細作とせり。細作。早速三回。報る。背後の西水の上。百餘騎の車に兵糧と武。又河の内。も五百餘艘の船に兵糧と積。水法と並び。て。突向に。虚実ハ分明。小暗。一。太守。と。聞。云。

巧く計あ。人再び人と考。一。其。否と探。若果。兵糧。終。あ。ん。バ。別。不良計と強。又一人と考。一。翌日。細作。三回。告。ぐる。車の上。を。兵糧。不。疑。い。あ。一。船。の上。あ。る。又。兵糧。あり。を。よ。と。を。人。が。希。と。一。度。ひ。れ。米。袋。も。出。ぬ。い。ぬ。張。清。が。云。己。に。わ。く。ど。一。我。今。有。打。て。か。是。等。の。上。に。車。と。探。し。後。又。水。中。の。船。と。取。り。太守。お。公。ハ。警。不。城。と。守。り。又。終。一。鼓。し。利。と。得。ん。と。何。の。疑。う。あ。ん。太守。此。計。を。聞。て。神。妙。あ。り。と。同じ。即。時。に。号。令。と。傳。へ。兵。と。傳。へ。ぬ。夜。張。清。一。千。餘。騎。を。引。て。城。外。小。馳。出。漸。十。里。ぐ。り。る。に。前。面。より。一。騎。の。車。と。推。来。り。車。の上。に。一。行。の。大。文。字。あり。張。清。月。色。に。透。して。文字。と。云。ふ。水。滸。寨。忠。義。糧。と。多。明。に。書。付。々。々。其。時。花。和尚。魯。智。深。ハ。六。十。二。斤。の。強。彈。杖。と。搦。て。

昔先に死來り。張清は是と見て、あはれ彼和尚が取小一石と籠一息を  
 得る人のと。石と捨て待置し。魯智深は己に教育と知し。石  
 ぬえ知しぬ。解ふてあり。ちやとて。石に張清はとらる。石  
 と死せられ。魯智深が取小打中。血水と衝ぐ。あま不道の勇  
 ある。死和尚は。石不中。眼と眩はし。勢の大軍を圍れ。己に討し。人  
 と。人との。武行者は。力と揮て。勢の中に。破く。入這く。魯智深  
 ぬえ。許多の車と。撤帳を。逃走す。張清は。逐に。車と。棄て。あま。張  
 り。果して。皆兵糧あり。人。中。急。怪び。勢。三軍。子。車。法  
 推。城。中。へ。回。り。太。守。に。ま。え。ん。く。勢。告。げ。れ。太。守。收。ぶ。て。限。り。あ。し。  
 張。清。が。云。ふ。又。水。中。の。船。船。と。操。り。あ。ま。ん。太。守。相。公。再。び。好。音。と  
 け。り。人。と。と。ま。り。人。を。傾。し。城。中。と。打。お。ま。り。河。の。濱。に。引。し。

忽ち。厚。衣。を。以。て。布。を。黒。霧。天。不。透。り。人。々。面。と。背。と。こ。つ。人。更。小  
 人。之。に。比。は。則。ち。公。孫。勝。道。湖。と。り。て。か。の。ど。く。天。地。と。暗。ま。し。る。ん  
 張。清。此。天。地。と。見。く。太。守。周。章。再。び。引。退。人。と。せ。し。早。に。人。と。せ。し。  
 て。四。方。小。賊。の。勢。舟。一。一。起。り。林。沖。走。人。と。引。て。跑。あ。り。張。清。と。る。人  
 水。中。に。追。着。し。う。れ。む。太。守。張。清。張。順。三。改。太。重。八。人。の。水。軍。頭。領  
 張。清。と。捨。て。待。置。し。三。流。兄。弟。皆。是。の。と。て。逆。不。張。清。と。活。捕。ぬ。て。ま。い。が。中  
 張。清。送。り。う。り。宋。公。孫。用。勝。小。卒。三。軍。と。進。め。出。ち。城。り。の。攻。ま。り。  
 城。と。ま。り。小。卒。圍。む。喊。の。お。り。乾。坤。も。驚。く。作。ん。太。守。の。計。を。と。厚。て。勝。と  
 消。え。不。副。子。の。城。戸。と。開。て。逃。ぬ。人。と。し。軍。兵。充。満。て。更。一。箭。の。吹  
 も。あ。り。う。り。人。馬。と。や。城。内。に。乱。れ。入。り。先。劉。唐。と。救。い。か。し。ま。あ  
 後。東。昌。府。の。庫。と。開。て。金。銀。米。錢。悉。く。棄。ぬ。と。二。三。小。卒。と。深。山。泊。し。



水軍の頭領等

張清を水中に  
生捉

新編水滸傳卷之五十一

三

運せ軍用の儀あり。一六個人ふあゝらるが。此処の大王の平者潔白  
 して社氏と憐れ石炭の写とある人ふあゝらる。宋に是と教  
 してめは。破しぬれ法大將皆東昌府に聚りし。起ふ水軍の大將ら  
 法と引あつ。宋に小献は。諸頭領多く張清ふ打悩されし。うが吾等  
 切て殺害せん。と候へらる。宋に再三候て親自張清が郷の素を  
 解懸敷ふれと行つて云々。我等々將軍の虎威と北しぬや。と  
 ころ罪と多う。多くと。未と云も候へらる。魯智深は。色と釋  
 杖と掲げ恰も猛虎のどく。吼て堂前に吼き。張清とそんが。只  
 一打ふ。棚のどく。打潰えんと揮拳。うれば。宋に大ふ。釋と候てこれと  
 擡。只魯智とそん。魯智深と宥め。遂に張清と助けらる。張清  
 へ宋に仁徳と感。多ら地よに張伏し。魯智深とあむ。宋に張清と

取。天地と奠り。策と折て。抄ひとま。向後我輩は。張將軍を恨  
 してあゝ。皇天の罰とあ。刀剣のりれ。死すべし。と。高声ふ。叫り  
 たらば。諸豪傑も皆一同。小首と候。多我ら。のあ。ざら。う。是  
 れ。終。宋に大に。候。び。を。や。歸陣すべし。と。候。く。る。起。ふ。張。清。を。こ  
 め。云。此。東。昌。府。の。一。人。の。馬。醫。あり。復。姓。の。皇。甫。名。の。瑞。と。号。し。此  
 人。徒。馬。と。相。し。又。善。る。を。醫。と。或。は。針。と。用。ひ。ま。が。曾。て。張。あ。ら。び。と。云。と。あ。し。ま。の。伯。樂。が。才。と。ま。し。け。ん。の。の。と。幽。州  
 の。民。あ。し。と。譚。名。と。紫。髯。伯。と。や。つ。れ。け。ん。と。梁。山。泊。小。誘。引。し。ら。る。が。後。日。を。用。育。べ。し。此。節。あ。は。と。招。き。ら。る。ん。や。宋。に。聞。て。あ。が。候。び。  
 我。の。ま。が。の。け。の。あ。き。人。と。得。ず。し。て。平。生。これ。と。申。ひ。ら。る。皇。甫。瑞。も。肯。て。山。陣。ふ。よ。ら。ば。莫。大。の。幸。あ。る。ん。張。清。は。言。と。聞。て。早。速。皇。甫。瑞。と



朝廷の御赦免とあつて忠功をそらんんと祈り三つ則晁天王早  
仙界小生ぐまひてせしむる再び相見えんと祈り四つ則火小  
燒水小溺れ横死と遂ぐる科あり軍民ら俱に善行と得んと  
と祈り行我事が罪過と謝せんと欲を未だあはれ法英雄の  
不なりん法得是と聞云々んは事をも理不當れり唯う教て  
同んせしんや呉用がいん先ら孫勝と情を醜事と主せそ  
後又人と四方小弛法徳の及士と結待し諸事宜しく商談して半  
息も差あしりば則四月十五日と始して七日七夜醜事と行せ  
る後孫材と強し法をこつて個々忠義堂の前あり大旗と立堂とあり  
三寸のちを堂と設け堂の中央あり七堂三法の石像と供養し  
ハ二十八宿十二宮辰と設け堂外あり四天王の像と引ね被是嚴り

備て慢るこもあつては則諸將と俱に事令く用意を  
備へて遂に四十八の乃士と結待し山陣にありは公孫勝成  
加へるに四十九人の乃士と忠義堂の上にあし醜事と行ふは  
日五里のち晴天を朗あり板木の盧俊義と首として呉用  
法政と次として個々香と拈て拜とあり公孫勝へ法乃士の上り  
己に醜事と修し毎日念ふ早第七日ありは宋の孫天王  
小孫聞し宋の安全と祈らんとして事と公孫勝小命とらるに  
孫勝命となく虚皇星の才一をの坐しは法乃士乃士乃士  
ふ坐し宋の法將と引て舟三をの坐し軍卒亦皆星下の坐し  
法乃士と上天と拜し懇ふ祈りたり此夜三更の時分空中大  
小雷て西の方に光りあり法乃士惟であれとらるは忽ち一塊の火



現と出て暫く虚をて死するが道の虚皇基の上ふ居て座の四方  
繞り又地ふ居て西南の方ふありぬ宋の子遠人と死する火を取  
くふ火をて入る則ち一の石碑あり碑の面ふ數行の天書あり宋の  
是と見く香と炷花と供へ忠義堂の内ふ運せ法乃生英の法の  
形と傳く同じく石碑と云るの碑の面の文字却く篆書の跡を  
人皆あまを識ず時ふ何を通と云る士とて云く云く我宋六  
生之祖より傳く一冊の秘書と持くるが其内の文字却く篆字未  
の天書あり。宋の天子と熱讀して能天書と傳ふを碑と我宋  
せり心早速の辨じぬらん宋の法を大に秘ひ刻碑と取て何を通  
にせしむ何乃士良久しくこれとて大に秘ひけ篆書却て將軍ホ  
の大名と書し者あり。たの一行の替天行道と云四の文字右の一行

ハ忠義雙全と云四の文字上の一行ハ皆星辰南水の二斗大あり下  
の一行ハ却く法大將の番号あり。乃姑あらんば我て是と傳べ  
宋の法び斜ありてしそく。是れ是と讀み我宋の法を解  
しるらん。法大將と感ず。恐らん上天我宋と責むの如  
も考くも。是れ是と読し多に傳して一字も刻さばそく教人  
乃一云おのく。是れ是と読し多に傳して一字も刻さばそく教人  
則蕭讓小令にて何乃士が續而を写さしむ。何乃士が云く。碑の表  
小三十六行の天書あり。是皆天罡星あり。同と裏ふ七十二行の天  
書あり。是皆地煞星あり。其下に諸將軍の姓名あり。我宋の法  
知らしめやさん。法大將の法を写し多とて。一く法大將の法を  
写して云梁山泊天罡星三十六員

天魁星呼保義宋江  
天機星智多星吳用  
天勇星大刀閻勝  
天猛星霹靂火秦明  
天英星小李廣花榮  
天富星摸天鵬李應  
天孤星花和尚魯智深  
天立星雙鎗將董平  
天暗星青面獸楊志  
天究星急先鋒索超  
天異星赤髮鬼劉唐

天罡星玉麒麟盧俊義  
天開星入雲龍公孫勝  
天雄星豹子頭林冲  
天威星雙鞭將呼延灼  
天貴星小旋風柴進  
天滿星美髯公朱仝  
天傷星行者武松  
天捷星沒羽箭張清  
天祐星金鎗手徐寧  
天速星神行太保戴宗  
天殺星黑旋風李逵

天微星九紋龍史進  
天退星栲翅虎雷橫  
天劍星立地太歲阮小二  
天罪星短命二郎阮小五  
天敗星活閻羅阮小七  
天慧星拚命三郎石秀  
天哭星雙尾蝎解寶  
石碑の裏小書云梁山泊地煞星七十二員

地魁星神機軍師朱武  
地勇星病尉遲孫立  
地英星天目將彭玘  
地煞星鎮三山黃信  
地傑星醜郡馬宣贊  
地奇星聖水將軍廷珪  
天究星沒遮欄穆弘  
天壽星混江龍李俊  
天竟星船火兒張橫  
天損星浪裡白跳張順  
天牢星病關索揚雄  
天暴星兩頭蛇解珍  
天巧星浪子燕青

地雄星井木犴郝思文  
 地猛星神火將魏定國  
 地正星鐵面孔目裴宣  
 地閻星火眼狻猊鄧飛  
 地間星錦豹子揚林  
 地會星神算子蔣敬  
 地祐星賽仁貴郭盛  
 地獸星紫髯伯白肅端  
 地慧星一丈青扈三娘  
 地然星混世魔王樊瑞  
 地狂星獨火星孔亮

地威星百勝將韓滔  
 地文星聖手書生蕭讓  
 地濶星摩雲金翅歐鵬  
 地強星錦毛虎燕順  
 地軸星轟天雷凌振  
 地佐星小温侯呂方  
 地靈星神醫安道全  
 地微星矮脚虎王英  
 地暴星喪門神鮑旭  
 地猖星毛頭星孔明  
 地飛星八臂那吒項充

地走星飛天大聖李長  
 地明星鐵笛仙馬麟  
 地退星翻江蜃童猛  
 地遂星通臂猿候健  
 地隱星白花蛇楊春  
 地理星九尾龜陶宗旺  
 地樂星鐵叫子樂和  
 地速星中箭虎丁得孫  
 地愁星操刀鬼曹正  
 地妖星摸著天杜遷  
 地伏星金眼彪施恩

地巧星玉臂匠金大堅  
 地進星出洞蛟童威  
 地滿星玉幡竿孟康  
 地周星跳澗虎陳達  
 地異星白面郎君鄭天壽  
 地俊星鐵扇子宋清  
 地捷星花頂虎龔旺  
 地鎮星小遮欄穆春  
 地魔星雲裡金剛宋萬  
 地幽星病大蟲薛永  
 地僻星打虎將李忠

新編水滸畫傳卷之五十八

地空星小霸王周通  
 地全星鬼臉兒杜興  
 地角星独角龍鄒潤  
 地藏星笑面虎朱富  
 地損星一枝花蔡慶  
 地察星青眼虎李雲  
 地醜星石將軍石勇  
 地陰星母大蟲顧大嫂  
 地壯星母夜叉孫二娘  
 地健星險道神郁保四  
 地賊星鼓上蚤時遷

地孤星金錢豹子湯隆  
 地短星出林龍鄒淵  
 地囚星旱地忽律朱貴  
 地平星鐵臂膊蔡福  
 地奴星催命判官李立  
 地惡星沒面目焦挺  
 地數星小尉遲孫新  
 地形星菜園子張青  
 地劣星活閃婆王定六  
 地耗星白日暈白勝  
 地狗星金毛犬段景住

何乃士一々天書と辨じて讀みければ蕭條の事と写し  
 宋の法政の事を見て奇異の思ひをなす  
 對して云我輩如て天星の如く今日上天奇瑞を現し  
 人火氣の聚り座位の次中天已の事を定むる上各天書に  
 列ふ依りて守りて争ひて天言の背をさす事ありて諸英  
 雄是を聞て一同小言するは天辱く奇理を現し  
 舟天罡地煞と云て明く定めぬ事不推りあり相違く者あり  
 や向後天言不隨つ各守りて此時宋の黄金一百支  
 と以て何を通小附し其の所より多く金銀を送つて懸  
 懸小附しければ皆宋の由來と感して翌日山陳をたけり  
 日又宋は明ハ兵用宋武ホと議定して堂上に一面の額と掛大文字



新編大正書傳卷之五十一



新編大正書傳卷之五十一

公孫勝天を祭りて  
 百八人の座位と  
 定む

少く忠義堂と云三字と書断金亭少も又大額と掲前面二三の  
圖と建忠義堂の肖像も一の鳳臺と建正面の廳上へ鼎天王的  
吳牌と供養し。東西又二の書房と建くく

○梁山泊の英雄座次と掛

扱も梁山泊東の書房あり。宋の兵用呂方郭盛此も位也。西の書房  
少の盧俊義公孫勝孔明孔亮此の位を階の下に左一代の房中少  
朱武黃信孫立蕭讓張良此の位に同右一代の房中少戴宗燕  
青張清安乃令皇甫端此も位也。忠義堂の左の房中倉の宋  
進李應蔣敬凌振あまんと書のく同く右の房中倉の花榮樊瑞  
毛本李哀是と書の。山前の南法中一圍ハ解珍解寶是と守。同ドを  
中二圍ハ魯智深武行者是と守。同ドを三圍ハ宋全雷横はは

正西ノ  
陸陣  
守護  
人

守る。東山の一圍ハ史進劉唐これと守り。西山の一圍ハ楊雄石秀  
あまんと守る。小山の一圍ハ穆春李達是と守り。は六圍ハ少の  
と立。四圍ハ陸陣。四圍ハ水陣あり。正南の陸陣ハ秦明索超歐鵬鄧  
元。あまんと守り。正東の陸陣ハ関勝徐寧。宣贊。郝思文はと守り。正  
北の陸陣ハ呼延灼楊志韓滔彭玘あれと守り。東南の水陣ハ李俊  
阮小二これ守り。西南の水陣ハ張横張順あまんと守り。東水の水陣ハ阮  
小五童威これと守り。西水の水陣ハ阮小七童猛是と守り。少の陸陣  
あり。あまんと守り。は六圍ハ新に若干の陸陣と張せて。山前ハ  
小笠原三郎中央の大旗。少の替天行道と云四字と大文字。少の書記  
又二の御旗と忠義堂の左右に建。一ツハ山東呼保是と書。一ツハ  
河水に麒麟と書く。少の外に花豹虎豹の旗。花豹の旗。少の竜

白虎の旗、朱雀の旗、玄武の旗、四斗の旗、四方の旗、三才九曜の旗、二十八宿の旗、六十四卦の旗、周天九宮八卦の旗、一百二十四面、鎮天の旗、陣前陣後、圍前圍後、透間もたぐく、建列ねもいぐむくと云、數とあはれ、吉日と擇て牛と殺し、驛と宰、天地神明、不献、恩と謝し、法政の軍、卒ふあつは、け日ハ酒宴と用て、樂と催し、其の又号令と傳へ、云、大小の法政、各よろしく、其職を守つて、誤とあつれ、成と傷、者あつて、軍法、依て罰と行へ、と命じ、つ。扱法、外、の職、事、た、ふ、は、

計開

梁山泊總兵都頭二員

呼保義宋江

王麒麟盧俊義

梁山泊掌管機密軍師二員

智多星吳用

入雲龍公孫勝

梁山泊掌管錢糧頭領二員

小旋風柴進

撲天雕李應

馬軍五虎將五員

大刀關勝

豹子頭林冲

霹靂火秦明

雙鞭將呼延灼

雙鎗將董平

馬軍八驍騎兼先鋒使八員

掃翅虎雷横

黑旋風李逵

浪子燕青

急先鋒索超

没羽箭張清

美髯公朱仝

九紋龍史進

没遮欄穆弘

馬軍小彪將兼遠探出哨頭領一十六員

鎮三山黃信

病尉遲孫立

醜郡馬宜賢

井木行郝思文

百勝將韓滔

天目將彭玘

聖水將軍廷珪

神火將魏定國

摩雲金翅歐鵬

火眼狻猊鄧飛

錦孟虎燕順

鐵笛仙馬麟

跳澗虎陳達

白花蛇揚春

錦豹子揚林

小霸王周通

步軍頭領一十員

花和尚魯智深

行者武松

赤髮鬼劉唐

小李廣花榮

金鎗手徐寧

青面獸揚志

病關索揚雄

拚命三郎石秀

兩頭蛇解珍

雙尾蝎解寶

八臂那吒項元

飛天大聖李夜

步軍將校一十七員

混世魔王樊瑞

喪門神鮑旭

小遮攔穆春

打虎將李忠

病大虫薛永

金眼彪施恩

中箭虎丁得孫

沒面目焦挺

白面郎君鄭天壽

雲裡金剛宋萬

摸著天杜遷

出林龍鄒潤

獨角龍鄒潤

花頂虎龔旺

沒面目焦挺

石將軍石勇

梁山泊四寨水軍頭領八員

混江龍李俊

船火兒張橫

浪裡白跳張順

立地太歲阮小二

短命二郎阮小五

活閻羅阮小七

出洞蛟童威

翻江唇童猛

梁山泊四店打聽聲息

東山酒店

小尉遲孫新

母大蟲顧大嫂

西山酒店

菜园子張青

母夜叉孫二娘

南山酒店

早地忽律朱貴

鬼臉兒杜興

北山酒店

催命判官李立

活閃婆王定六



梁山泊總探聲息頭領一員

神行太保戴宗

梁山泊軍中走報機密步軍頭領四員

鐵叫子樂和 鼓上蚤時遷

金毛犬段景住

白日龍白勝

守護中軍馬軍驍將二員

小温候呂方 賽仁貴郭盛

同新步軍驍將二員

毛頭星孔明 獨火星孔亮

梁山泊專掌行刑劊子二員

鐵臂膊蔡福 一丈花蔡慶

專掌三軍內探事馬軍頭領二員

矮脚虎王英 一丈青扈三娘

梁山泊一同參贊軍務頭領一員

神機軍師朱武

梁山泊掌管監造諸事頭領一十六員

掌管行文走檄調兵遣將一員

聖手書生蕭讓

掌管考算錢糧友出納一員

神筆子將敬

掌管定功賞罰軍正司一員

鐵面孔目裴宣

掌管專工監造大小戰船一員

玉幡竿孟康

掌管專造一應兵符印信一員

玉臂匠金大堅

掌管專造一應旌旗袍襖一員

通臂猿候健

掌管專攻醫獸一應馬匹一員

紫髯伯皇甫端

掌管專治諸疾内外科醫士一員  
 掌管監督打造一應軍器鐵甲一員  
 掌管專造一應大小號砲一員  
 掌管專一起造修緝房舍一員  
 掌管專一屠宰牛馬猪羊牲口一員  
 掌管專一排設筵宴一員  
 掌管監造供應一切酒醋一員  
 掌管專一築梁山泊一應城垣一員  
 掌管專一把捧帥字旗一員  
 宣和二年孟夏四月吉且宋江明忠義堂不於此法政の職事  
 と定め奉り候事と具へ於日飲政とあり。御く奉旨ふめて宴候り

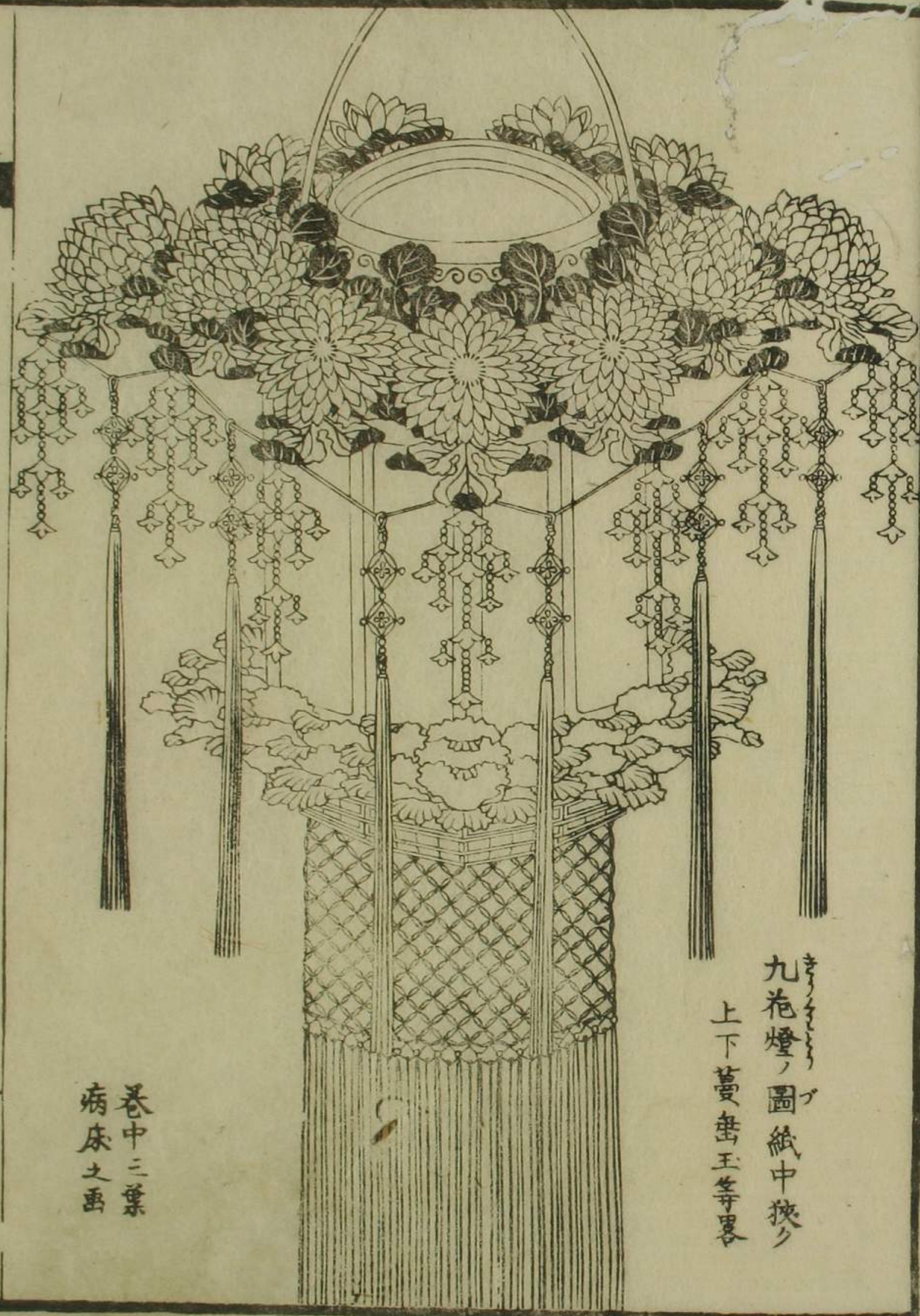
神醫安道全  
 金錢豹子湯隆  
 轟天雷凌振  
 青眼虎李雲  
 操刀鬼曹正  
 鐵扇子宋清  
 笑面虎朱富  
 九尾龜陶朱旺  
 險道神郁保四

一うべ法政の者兵符印信と欲し。役取らる小ぬりたる。宋江又  
 吉日良辰と擇んで。諸頭領と忠義堂に招き。則て云々。今日  
 既ふ天罡星地煞星相聚る。系朱宿獨あり。又とぞも再び  
 天小對し。劫と盟し。吾々も起さば。死生相托。吉凶お救ひ。  
 禍福相扶け。一同小国と保て。民と安んず。可あり。法政飲  
 大小役び。宋君の高論。誠ふ天理ふ合ふべき事あり。誰うあ  
 て。美談ありんや。とて。吾香と拈て。堂上。に。跪。つ。ま。宋江先  
 天と拜して云。系鄙俚の小吏。ふして。不才不能。さうと。の。い。ま。も。  
 天地の蓋載と荷ひ。日月の照臨と蒙り。豪傑と梁山。小聚る。  
 英雄と水泊。小結び。総て百八人。上へ天數。小符し。下へ人。ふ。ふ  
 合は。自今。己後。不仁不義の心と生さる者。あ。く。ば。天神地祇

水滸畫傳卷之廿一

あまを誅しむひて。百八人の天敵の内と除き去り世を短くす。罪と免して人牙と得せしめりふとあられ集り只百八人とす。忠義とふ存して勲功と国に著し。天に誓つて乃を行ひ攻と深て民と安んじ。世々百八人おぼして盟と結ばんこと欲は。伏し。致くは上天を鑑し人として謹んで誓と況れは。虚偽義とゆし。法路の皆天と拜し。不仁不義をばばをこと同音おぼせり。宋は是とて大に怒び。此日へ大宴を設て。流皆誓ひの酒と酌み。ぬけ百八人の頭領ども常に人馬を引て山陣と打り。撃り官人等が不義の財と奪ひ取て。山陣の用は。人又或時。二三百里の間は。徘徊して。不仁の家と亡し。家財尽く掠り。山陣に運せ。猛威と遠近に振て。傍り各人の料あり。官府も

是と治ると能む。法刑法郡。恐れざるあり。宋は久しく軍と休て。人々の力と養ひ居り。夏も秋も。重陽の節己に。宋は忠義を。法將と共。賞して。觴と飛せ。酒。息して。我今法英雄と會し。擧と催は。朝廷の御赦免と。寸志猶安ん。日。帝都と踏んやと。宋公何。再。風李達。大音声。京の位と棄て。宋君に。賊官と。湯殺し。平生の恨と。



卷中三葉  
病床之函

九花燈ノ圖紙中狹ク  
上下黃岳玉等畧



李陸  
醉狂

蓋をかげん

思ひぬるに何の赦免う受人とて覺へば盃と取て座上に投ぐれば宋  
 の是と見えて忽ち大に怒り汝あんどかくのぞれを礼とあやや軍法に  
 何やと頭と削べしとて自ら軍卒と呼ぶあはれ命とくは法  
 政に大に怒りて個々罪と謝して云李逵が不碎れとあはれ宋君素  
 より知りし処をうけおれと免し宋江が云はれ方のをれい  
 免しがさしとども法英雄の縁をよしの暫く死罪と迎して牢  
 中におもひてしとて軍士小命と李逵と引せたるに軍卒等ハ李  
 逵お思ひをさしとてさしとて李逵が云汝軍卒お思ひとあはれ宋  
 江の縁とすかに切らふた我も死も寛か。宋君おあはれんば  
 此言聞てん中お憐れ昔日江州を憐れしとて思ひ出しそはば

取に後と含めれば兵用活て云今日の佳會は人樂くと信し  
 かく宋君李逵が罪と免し人彼一時の酒興おあはれとて  
 礼とさしとて原言髪も悪くあし。必むとてさしとて掛く  
 あはれ宋江が云我昔日江州あて酒場おぼつとて反詩と吟ど  
 くる時多く李逵が力と得て一命と股をぬ我今怒りお逼つ  
 旧情を忘れ己お彼と害せんとおもはるるを返さるるも後悔あれ  
 人もお潜逃として流石に武松の又旅事と嘆しとる人あはれ何  
 人も我を不許して法人の心を治しとるや我が存ある朝廷の  
 御赦免とあはれとて邦と去正されぬ。國家の臣とあり忠功と願ん  
 と微さるるの。毛頭も別心あり。魯智深が云今京の奸臣朝おは  
 て天子の時。おまが我此衣の黒が。豈よくあれと洗ひ洗ん



晴々る如ふ山下より任進して云某州の者若干の燈籠火  
 車系れ送らんとして藤と云う一人則ちあれと捉へて園外を  
 引せぬと報じらる宋江を聞てそなたの對面せんと云ければ  
 遙に是と引て堂前ふりぬ宋江は此輩と云うに某人の下官と  
 八九十の脚夫あり一人の下友は宋江に告ぐ云某州の  
 命と云て花燈と車系に獻ずる者あり然るに一命と免し  
 宋江が云我れや此輩と云う奪ひ汝らが一命と云うと助け藤に  
 追下さんと思ひ置れども汝らおと罪と云う人も不便あね只  
 の山と云うと云うてそなたの汝ら還らんは早々車系に送るべしとて  
 白銀二十兩と云うて一ツの九花燈と云うれば某人の下友は  
 拜し恩と謝し則脚夫と引て再び山階を降りたり宋江

ハ彼九花燈と晁天王が某州に掛てあれと云うそなたの功ありと  
 免用言語おそくして宋江は時法府に對して言々へ車系  
 の旧例として毎年後々の花燈と云うけ元宵と慶し某州の  
 樂々と同じうして美々善々と同く我れ某州の  
 以長生して某京の光景と云うれば某州の英雄と云うに  
 形小車系ふ上つて花燈と云うに誰人か我れに從ひ某州や某州  
 汝れと云う東京の眼明らるる下友どもも某州の  
 汝れと云う汝れに見答られぬ由々某州の大事出来すべし宋江が  
 云益の内旅宿ふ上つて形と藏し我れ入て城中に進み暗  
 袂細くして某州を見人か誰か我れと藏すの某州や某州疑ふ  
 とありれとて某州の某州と答ふ己の上京の工と云う

定して相伴ふ人と分して進發の先宋江の柴進と同姓  
 史進の穆弘と同姓、魯智深の武行者と旅の同行とあり  
 朱全の劉唐と同姓、その他諸人の皆山陣に留つてお守り  
 べしと定めたる東京元宵の花燈一見の始末改巻に詳あり  
 論者いへば梁山泊の豪傑の名の多く新氣多しと云  
 聲のなきも定むる太率人々と云々定め宋江号用ホシク  
 及士と凌へ天意小説て一時小片列の編ありと怪くさ  
 と云せざるん公孫勝が術ありべく何ぞ通が天書の字と暗記  
 訓者異用が謀ふ出さるるべし早く埒明虎豪傑一佈位と  
 吳倫ありと守りて大い作者の御さあり  
 秘は巻豪傑の姓名異譯名の文字卅小序処を記し得るなり今

一くあれと改正は先程通俗忠義水滸傳下編三十二巻に出  
 附ありむも併せり。岩島氏の比の字書云々極勿名が字彙と  
 恥字し。正字通康熙字典おどつらぐ舶来ありと云々。岩島  
 氏の附む字ふかほ併りぬと不審のとあり△撰天離の天と撰  
 離り。撰とがと併べり△撰命三郎の捨命しとあり。撰も  
 捨もさつと併り同義あり。我に離る命と撰りも厭ぬとあり  
 △井木行の狐の教あり。井木行と有り併り△轟天雷の轟ふ  
 さめ音と響とあれども音のウと△八臂と入臂と書り  
 併あり△玉符匣と匹ふ書り非△星の各地孤星と狐の字に  
 書り併り△鬼臉兒杜魚の臉のめと音セン鬼臉兒とあり  
 併りあり△活閃婆と一霍閃婆と書りしとあり△鼓上蠶と蚕



小作人月字あり △病尉遲病関索病大虫あど病の病へびやと  
 呂々々に列も妨あり △尉遲の古人の名小取尉遲と漢へうげ大  
 虫へ虎の一名あり △病の字ハ漢退して加へる字あり △霹靂火  
 ハ雷の火れて烈しくも取 △黒旋風と云李達が色黒く旋  
 風のててて働くふふ △波遮欄と云勇猛とと遮欄人没との名  
 小遮欄の字あり △小の字を呼ぶあり △挿翅虎ハ翅と挿と  
 虎とが上の猛とあり △浪裡白跳ハ張順が白く水に小遊と  
 浪ふ跳ふふ △双尾蝎ハ兄と兩頭蛇と云や双尾蝎と云一あり  
 △醜郡馬鉄面孔目との官勢職吏の名に云 △摩雲金翅は  
 雲と摩すハ云々 虎と金翅鳥ハ伴教小出る名あり △火眼狡狼  
 眼火のててて火を狡狼あり △矮脚虎ハ猛虎の勢いあれた生野火

低き之 △喪門林ハ邪林あり △扈三娘孫二娘ハ娘あり娘ふあり娘  
 △混世魔王とハ世とあるとのれせんとする怖く魔王あり △跳洞虎  
 ハ挿翅虎の類ふ洞ふ遇ふ力あり跳越るあり △雲裡金剛ハ金剛  
 カ士が雲の裡ふまると象る △中箭虎ハ箭に中する虎が狂ふま  
 あり △金眼彪とハ眼の光る金色なる豹あり △豹と表  
 虎豹の字とぬもの多し △金錢豹子ハ湯隆打鉄匠と云 虎身  
 火傷の癩多きを豹の皮に紋がけられたる云あり △催命判官ハ命  
 と縮むる官人の名 △菜園子ハゆり園の守りと云 △母大  
 虫ハ婦人ハ雌虎と名とれ 母夜叉ハ婦人の夜叉と云叉又ハ鬼  
 あり △活閃婆ハ子跳走閃婆ハ母と云 疾まれば △活閻羅ハ活る  
 閻魔のててて云 活の字ハ動靜自在の名ふ △没面目ハ

新編小言書伴卷之十

禁<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>と討<sup>レ</sup>て百<sup>レ</sup>目<sup>レ</sup>と没<sup>レ</sup>せり人<sup>レ</sup>没<sup>レ</sup>ハ其<sup>レ</sup>の字<sup>レ</sup>と同<sup>レ</sup>氏<sup>レ</sup>没<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>箭<sup>レ</sup>と云<sup>レ</sup>も張<sup>レ</sup>良<sup>レ</sup>  
 石<sup>レ</sup>と名<sup>レ</sup>く人<sup>レ</sup>と打<sup>レ</sup>く神<sup>レ</sup>妙<sup>レ</sup>と名<sup>レ</sup>くれば弓<sup>レ</sup>箭<sup>レ</sup>の御<sup>レ</sup>氏<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>河<sup>レ</sup>と云<sup>レ</sup>も其<sup>レ</sup>あり  
 婦女<sup>レ</sup>の為<sup>レ</sup>ふも其<sup>レ</sup>の大<sup>レ</sup>畧<sup>レ</sup>とあり述<sup>レ</sup>  
 宣<sup>レ</sup>和<sup>レ</sup>二年<sup>レ</sup>とありと日<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>富<sup>レ</sup>ねが七十<sup>レ</sup>に代<sup>レ</sup>の希<sup>レ</sup>鳥<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>院<sup>レ</sup>の保<sup>レ</sup>安<sup>レ</sup>元<sup>レ</sup>庚<sup>レ</sup>子  
 年<sup>レ</sup>少<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>の法<sup>レ</sup>盛<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>れて三<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り時<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>宋<sup>レ</sup>の世<sup>レ</sup>と云<sup>レ</sup>に二<sup>レ</sup>あり南<sup>レ</sup>北<sup>レ</sup>朝<sup>レ</sup>  
 と云<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>の宋<sup>レ</sup>ハ姓<sup>レ</sup>劉<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>滸<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>宋<sup>レ</sup>ハ其<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>少<sup>レ</sup>姓<sup>レ</sup>趙<sup>レ</sup>あり依<sup>レ</sup>劉<sup>レ</sup>宋<sup>レ</sup>  
 宋<sup>レ</sup>と稱<sup>レ</sup>くて刑<sup>レ</sup>つ是<sup>レ</sup>も子<sup>レ</sup>細<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>べ<sup>レ</sup>

新編水滸畫傳卷之五十八

